

国際交流

中村 哲

大学国際交流センターおよび大学院看護学研究科の共催で7月に来日したノースライン・ウエストファレン（NRW）カトリック大学の一行を招聘し教育交流を実施した。その内容は下記に示した通りである。8月には中華民国台湾の慈済科学技術大の石丸雅邦先生が昨年に続き来訪された。12月には本学国際交流センター長（学部国際交流委員兼任）である佐々木副学長が返礼としてNRWカトリック大学を親善訪問した。また同センター長は、2017年1月に東日本国際大学主催による大学教育再生加速プログラム（AP）キックオフ・シンポジウム「学習者中心の評価文化を醸成する－ICEモデルの現在」において基調講演者として参加し、同シンポジウムに招聘された Sue F. Young 先生と再会し親交を深めた。なお、このシンポジウムはアクティブ・ラーニング委員会の支援で遠隔会議システムを活用して本学各部署で視聴された。また同シンポジウム講演内容はその後動画として本学においても共有されている。

1. ドイツ国 NRW カトリック大学との教育交流

教育交流会として、NRWカトリック大学の副学長シーラ・バイリヒ先生および同大学教授タニヤ・ホフ先生を招聘し実施した。また同大学から9名の学生ならびにコーディネータとして加藤洋子先生（帝京科学大学：本学前教授）が参加した。本学からは田中宏二学長、佐々木秀美国際交流センター長、河野保子研究科長はじめ、阿賀キャンパス教員、看護学研究科学生、看護学部精神保健福祉士コースの学生を含む約50名が参加した。そして、会場となった阿賀キャンパス205教室において、シーラ先生による、①「EU/ドイツの高等教育事情とカトリック大学の特徴」、②「ドイツにおける認知症患者と家族の事例－Person Centered Careに焦点をあてて－」の2講演と、佐々木先生による講演 ③「広島文化学園大学の概要と教育」の講演が行われた。本学教員の岩本由美が日英同時通訳を担当し、講演後には活発な意見交換が行われた。